

八基連だより

12月号 第256号



高尾駒木野庭園

<http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/>

発行日 平成24年12月1日(土)
発行所 八王子囲碁連盟
住 所 八王子市台町3-22-1-121
TEL (042) 625-9529
発行人・三上 靖宏
編集者・山縣 文雄

八王子囲碁連盟の目的

八基連は、八王子市内に居住する囲碁愛好者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるよう機会を提供し、福祉の増進に寄与するとともに、棋力の向上を図ることを目的とする。

大いなる勘違い

由木囲碁同好会会長 杉淵 清

子供時代には周囲に将棋をたしなむ人は多かったが、碁を打てる人は皆無であった。シベリアから復員された方が、将棋に比べて碁のほうが30%は面白いといていたことが妙に記憶に残っている。シベリア抑留時代に碁を覚え、無聊を慰めたようである。子供心に興味を引かれたが、当時田舎には碁の道具もなく、30%増の楽しみを実感する機会はなかった。碁を始めたのは結局社会人になってからだった。

最近自分の子どもに碁を教える人が多いそうである。中国、韓国の後塵を拝している状況から脱却する応援を、と考えてのことか、老後の対局相手を養成しようとの布石か、いずれにしても囲碁愛好者としてうれしいことだ。ところでよく聞くのは、囲碁入門時のハードルの高さである。将棋でも相撲でも勝ち負けは子供でも納得できる。しかし碁の場合、初心の時は勝ち負けを実感(体感というべきか)できないかもしれない。日本棋院も碁は深奥と訳が分からないことを言っている。最近9路盤、13路盤などによる指導法もある。張栩棋聖の考案による四路盤などは碁の不思議さを体験させてくれる。とにかく負けて悔しいと思い、その訳を考えるようになったら入門コースは卒業だろう。

最初の関門を通り抜けても道遠しである。以下は私の失敗談である。囲碁の勝負は地の多寡で決まると教わった。これで碁を陣取りゲームときめこんでしまった。碁のことを囲碁ともいう。「囲」という語の意味は、辞書によれば「かこむこと」とある。どうもこのあたりに思い違いのもとがあったようだ。未開の広野に人より早く杭を打ち、我が地所の広さに得意になっている風情なのだ。碁は陣取りゲームである前に「石の戦い」である、と最近読んだ。今さら手おくれの感なきにしもあらずだが、より碁の本質に近いと思われるこのような至言に触れると、いままでとは違う楽しみが待っているような気がする。

第23回八基連囲碁大会 2段以下

日 時 12月2日(日) 午前9:10受付 東浅川保健福祉センター

申し込みは終わっています

第14回棋聖大賞囲碁大会のご案内

開催日 平成24年1月27日(日) 東浅川保健福祉センター 午前9時より
 参加者 八基連相談役、技術顧問、指導員、会長、理事、業務委嘱者
 地区同好会会長ほか一名、研修部事務長、7段以上の会員
 諮問委員会委員、活性化実行委員会委員
 通知 参加該当者には、別途案内を差し上げます。

第62回 八王子市民文化祭囲碁大会の結果

八王子市民文化祭囲碁大会が11月3日、東浅川保健福祉センター館長竹内恵子氏をお迎えして行われました。八王子ケーブルテレビの撮影も行われ、何回か放映されました。

	入賞者	参加者数合計147名	一般61名	会員86名
S組	優勝 小川浄二 7段(一般) 準優勝 桑野 信 6段(一般) 三位 市谷智雄 7段(由木)	6段以上 27名	11名	16名
A組	優勝 柴沼 裕 5段(一般) 準優勝 窪川広昭 5段(一般) 三位 上野純親 5段(浅川)	5段 23名	11名	12名
B組	優勝 浜田英嗣 4段(川口) 準優勝 福井幸夫 4段(一般) 三位 伊藤文一 4段(北野)	4段~3段 26名	9名	17名
C組	優勝 斉藤隆男 2段(一般) 準優勝 清水克彦 2段(一般) 三位 北原 正 2段(浅川)	2段~初段 30名	11名	19名
D組	優勝 堀河弘一 1級(一般) 準優勝 S O 8級(一般) 三位 福島きみよ 2級(石川)	級位者 41名	19名	22名

第23回八碁連囲碁大会 3段以上

八碁連囲碁大会3段以上の部が11月11日に行われ、当日15名の方が高齢者表彰されました。
高齢表彰者

NO.	年齢	氏名	所属	段級	生年月
1	80歳	淵上和夫	恩方	7段	S. 7. 2
2		長島 廣	元八王子	4段	S. 7. 9
3		森本通俊	↑	3段	S. 7. 12
4		矢野亮一	中野	4段	S. 7. 11
5		宮川将美	台町	5段	S. 7. 8
6		倉田 三	↑	3段	S. 7. 5
7		栗山昌三	↑	3段	S. 7. 9
8		信江 峻	由木	7段	S. 7. 1
9		名取 進	長房	4段	S. 7. 10
10		矢島一雄	川口	4段	S. 7. 10
11	85歳	梅田昭二郎	浅川	6段	S. 2. 4
12		丸山 郷	台町	3段	S. 2. 12
13		若林近生	北野	6段	S. 2. 4
14		川村英二	長房	3段	S. 2. 12
15	90歳以上	中田 勉	中野	6段	T. 5. 8 (96歳)

大会の結果

参加者 (85名)	優勝	準優勝	第3位
A組 (7段~6段) 18名	真田誠次 7段/浅川	高本 衛 7段/台町	磯部信広 6段/中野
B組 (7段~6段) 16名	吉田 旭 7段/浅川	藤崎 稔 6段/北野	金本好正 6段/石川
C組 (5段) 18名	上野純親 5段/浅川 →6段に昇格	小田辰郎 5段/長房	水野義嗣 5段/石川
D組 (3段~4段) 17名	山崎 臣 3段/川口 →4段に昇格	小沢正巳 4段/恩方	谷 透 4段/北野
E組 (3段~4段) 16名	大橋利行 4段/大和田 →5段に昇格	尾池秀夫 4段/浅川	田中秀司 3段/川口

私が初めて勤務したのは「東京都南多摩郡日野町立日野第一中学校」だった。昭和35年4月1日付の任命書がある。初任給は12,680円と書いてある。校長は飯塚節三、教頭は飯田卯吉、ただし教頭はついこの間まで「校務主任」とよばれていたようだ。大方の教職員はこの新しい呼び名になじめないで「飯田さん」と呼んでいた。日野中学校の教員は、個性豊かな面白い人ばかり揃っていた。

新撰組の隊員みたいとは言わないが、とにかく猛者ぞろいだった。女性もしっかりものが揃っていた。なかでも佐藤先生（花上先生）は、落ち着いて茶目つけたっぷりであったが、生徒に「おかめ」といわれても「あらありがとう。オカメは平安時代の美人の代名詞よ」とやり返されるので、いたずら坊主共も拍子抜けのことが多かった。少年院行きのような子も、この先生にかかると、急におとなしくなってしまうわけが、その当時の私には分からなかった。優秀な子にも、田舎のいたずらっ子にも、家庭環境に問題のある子にも、等しく相手の立場に立って思いやるその態度に、子供たちは引き込まれて素直になったのではないかと思える。

日野の万願寺・石田・新井地区からも多くの生徒が通ってきていたが、この学区域は日野町（現在は日野市）の中でも、ひと昔まえの農村らしい雰囲気が残っている地域だった。住民も素朴で、家庭訪問で行こうものなら、母親がもみ手をしながら、「先生にいらしていただいてありがたいことです。」と心底うれしそうに言うのだった。私のクラスには土方姓は一人しかいなかったが、クラスによっては二三人もいたようである。かなりいたずらな子が多いので、あるとき「土方には参ったね。いたずらな連中ばかりだ」といってしまったら、「悪かったな」と声が出たので振り返ると、国語の土方先生が立っているのには参った。間の悪いことおびたしい。土方先生が温厚な人柄で茶目っ気のある方だけに本当に参ってしまった。うっかりしたことは言うものでない。

NHKの番組で、新撰組の土方歳三を特集していた。私の知らない事実を知らされ、「土方」に新たなる興味を覚えた。それは、鳥羽伏見で新政府軍（薩摩・長州主体）に敗れた後、甲州で決選を挑み再び敗れてしまうが、そのとき近藤は武士として潔く切腹しようとしたが、それを土方が押しとどめ、むしろ近藤勇に名乗って出るように説得したという。責任者の投降で相手も追及の手を緩めるだろうし、まさか名乗って出た者の命をとることはなかろうというのが、歳三の読みであったが、政府軍の対応はそのような生易しいものでなく、武士として切腹は許さず、流山で打ち首の刑罰を課したのだった。罪人扱いであった。これは土方歳三に生涯の悔悟を残す結果となった。

以後、土方は会津若松・函館五稜郭と転戦を重ね、最後には討ち死にを遂げるのだが、その厳しい新撰組法度はあまりにも有名で、函館では「退くものは斬る」といったそうである。彼は、最後まで「ずっと、気張っていたかった（武士の中の武士になる）」のだそう。彼の、経営者としての才覚、集団をまとめていく厳しさと統率力には目をみはるものがあった。士分でない農民の出身であった彼であったからこそ、そうしなければやっていけなかったのであろう。また多摩は徳川の直轄地であったこともあり、幕府に対する忠誠心も強い地域であったことも一因であろう。地元の彼を知る人々は、彼が新撰組の副長をしていると聞き驚いたという。彼は心根が優しくかったそうだ。彼の発句集に「梅の花、一輪咲いても、梅の花」

「春ははる、きのうの雪も、今日は解け」とある。

尖閣諸島と囲碁の航路

北野囲碁同好会 刀根正樹

『サラリーマン 降りて 台風17号』

9月末で78才となり、私は勤務先のスーパー、オザムを退職した。晴れて隠居の身となった。24才で、日本水産に入社して以来、南氷洋や北太平洋で鯨や鮭を漁ったり、中央研究所でオキアミの研究をして、また南氷洋に5回出漁したり、波瀾万丈だった。その都度、台風が悪友のようにやって来た。今回も9月30日、北野の八碁連の囲碁会に出ていると、台風17号がやってきた。

『今更、年寄りの冷や水みたいなことをするな。』と私をからかっているようであった。尖閣問題に、私は首を突っ込もうかとも考えていたのである。

石原慎太郎の尖閣購入騒ぎから火のついた、中国内のデモ、暴動。中国政府の日本非難。そして日本では、タカ派の安倍、石破が政権につく。これからの日中関係はどうなるのか。日中国交正常化40年。囲碁界も交流を深めて来た。その努力が水泡に帰すのか。この危機を日本が脱するためには、何をなすべきか。私は悩んでいる。

『女子オープン 韓中選手が 活躍し』

9月27日から、横浜カントリーで、日本女子オープンが始まった。中国のフォン・シャンシャンは、太った大きな体をゆらし、かわいい笑顔をふりまく。第一人者の台湾のヤニツェン、韓国のトッププロ達が参加して、華やかな競演をくりひろげている。日本の宮里藍、美香、木戸愛、上原彩子も負けじと立ちむかう。ギャラリーは喜び、拍手喝采する。これが人類の平和、幸せの姿だ。スポーツは戦争を遠ざける。オリンピックの心である。

『八碁連 日本棋院に 舵を切り』

三上会長から私のもとに往復ハガキが来た。日本棋院の『八王子囲碁連盟支部』を設立するので現在私が所有する個人会員を支部に吸収するという。私は早速三上会長さんに電話したのである。

『私は日本棋院では、6段の免状資格を持っています。どうか降格しないでください。』紳士の三上さんは、「結構です。」と答えられたので、私はホッとしました。私は30年近く週刊碁の世界に住みつき、さまざまな経験をした。八碁連よりも、はるかに長く深く苦しい月日を送って来た。ここで5段をもらい、6段を取得できた。そして今は、7段を目指し、毎年2回ある昇段試験を受験し続ける。『見果てぬ夢さ。ドンキホーテのように』と碁仇がせせら笑った。そうかもしれない。どうせ人生は『夢』なのか。しかし夢は、生きている間に見続けるものなのだから。

◎第8回八碁連理事会報告

日時 平成24年10月26日(金) 9:00~12:00

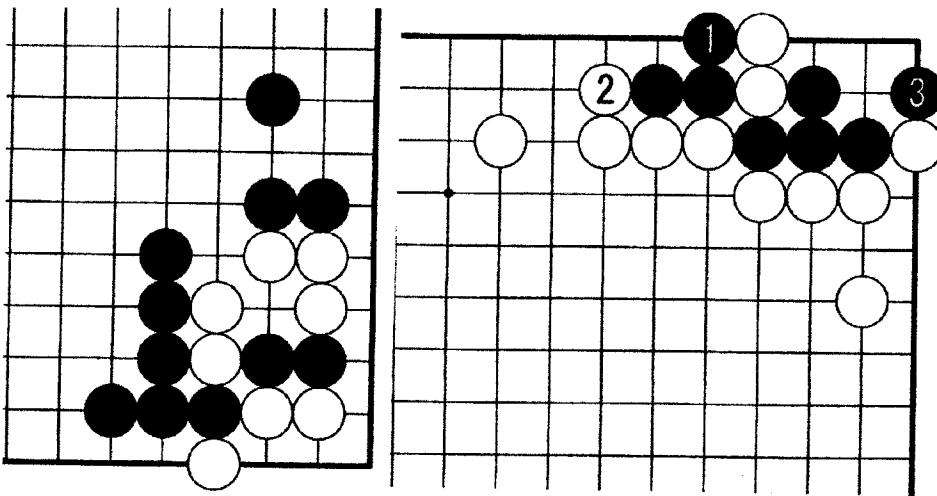
出席者 理事6名他大会実行委員

- 議案
1. 10月14日(日) 子ども囲碁大会について
成績報告、会計報告、今後の取り組み
 2. 11月3日(土) 市民文化祭囲碁大会について
 3. 11月11日(日) 八碁連囲碁大会(3段以上)について
 4. 活性化実行委員会報告
 5. 長房活きいき大会報告、川口活きいき大会報告
 6. その他

詰碁

黒先白死(碁経精妙)

前回解答



高尾駒木野庭園

今年、4月8日開園された八王子市の庭園。本格的な日本建築の建物と日本庭園からなり、敷地2,900㎡。高尾駅、高尾山口駅から歩いて15分ほど、旧甲州街道沿いにある、更に少し歩くと、小仏関所跡がある。

編集後記 八碁連大会(3段以上)の参加者数が昨年の103名から今年は85名と減少しました。当日、風邪で休まれた方もおられたようです。よい碁が打てるよう体調を整えることが長生きにもつながると思います。これからの寒さに負けないようお元気で。